

地球惑星科学委員会
SCOR 分科会（第 24 期・第 8 回）
議事録

日時： 令和 2 年 7 月 30 日 15 時 30 分ー17 時

会議方式：Zoom 会議、ホスト：東京大学大気海洋研究所

出席者： 山形俊男（委員長）、青山道夫、植松光夫、沖野郷子（幹事）、蒲生俊敬（幹事）、川口慎介、窪川かおる（副委員長）、齋藤文紀、白山義久、張 勁（副委員長）、新野 宏、花輪公雄、原田尚美、日比谷紀之、古谷研、益田晴恵、升本順夫、渡邊良朗（五十音順）

欠席者： 野村大樹

議題

報告事項

前回の議事録は確認済み。

1. SCOR 国際関係（資料 1-1、資料 1-2、参考資料 1）

山形委員長より 2020 年 SCOR 年会は、COVID-19 感染拡大に伴う措置として、10 月 20-22 日にオンラインで開催される予定との報告があった（資料 1-1）。新 SCOR 執行部案がまとまり、選考委員から加盟国に提案された。韓国の Sinjae Yoo 氏がアジア初の議長に、張委員は副議長に再選される予定である（資料 1-2）。10 月の年会で承認される。議長の Marie 氏が 2021 年に始まる「国連海洋科学の 10 年」に関して、SCOR の視点から分かり易くブログで解説しているので、分科会メンバーで共有した（参考資料 1）。

2. 国連海洋科学の 10 年関係（資料 1-3、資料 1-4、資料 1-5、参考資料 2、参考資料 3）

植松委員より「国連海洋科学の 10 年」の実行計画で目指すもの、と題して PPT を用いて準備の進捗について説明があった（非公開：参考資料 2）。植松委員は 19 名の Executive Planning Group のメンバーである。変更点としては計画の Decade Outcomes に Inspiring and Engaging Ocean が追加されて 7 つになったことがある。今後のスケジュールは、8 月に最終ドラフトが作成され、10 月に Call for Action を実施した後、来年 1 月に開始となる。資金繰りは各国に委ねられる方向にある。

山形委員長より地球惑星委員会に対して SCOR 分科会活動報告を 7 月 7 日付で提出したこと、この報告に国連海洋科学の 10 年への SCOR 分科会の関与についても追記したことの説明があった（資料 1-3）。

山形委員長より月刊海洋 2020 年 8 月号として出版した「日本の海洋科学：現在と将来」

について報告があった。これは 2019 年に富山で開催した SCOR 年会期間中に日本海洋学会と共催したシンポジウムを土台にしたものである（資料 1-4）。SCOR 年会の成功に尽力した張副委員長に感謝の意が示された。また、山形委員長より、海洋科学に関する国連決議は半世紀前にもなされ、我が国の海洋研究体制強化に果たした役割に触れた序文の説明があった（参考資料 3）。

窪川委員より「学術の動向」（令和 3 年 1 月号）特集企画が確定したこと、また産官学の勉強会構想について報告があった（資料 1-5）。植松委員より学術会議の活動が重要であるとの発言があり、幅広い支援体制の構築に向けた国内委員会の必要性について意見交換がなされた。

審議事項

1. SCOR WG 提案の評価（非公開：資料 2-1、資料 2-2）

蒲生幹事より、10 件の WG 提案への評価コメントを集計した結果について説明があった。Must fund:5、May fund:3、Not fund:1 の採点基準の下で、平均点は 1.5 から 4.6 の間に分布した。上位 3 件を must fund として SCOR に推薦できるため、評価点差、研究計画内容、メンバーシップ、地理的分布、能力向上プログラムなども考慮し、全委員で活発に議論を行った。結果、上位 4 件から 3 件に絞り込み、TRACESAMORS、ReMO、AEROS（いずれも略称）を must fund として推薦することにした。関連して 張副委員長より SCOR 理事会で今年度は採択 WG 件数を 3 件に増やす可能性について意見交換が行われている旨の説明があった。

その他

1. 研究船関係動向（資料 3-1）

沖野委員より共同利用航海の現状について報告があった。COVID-19 感染拡大による航海中止とそれに伴う対応が進められていること、および白鳳丸改修の進捗状況について説明があった。

2. 第 25 期に向けて

山形委員長より SCOR 分科会活動の持続性を保持すべく、第 25 期の学術会議会員、連携会員に選ばれた方々には SCOR 分科会委員を継続していただきたいとのお願いがあった。

今回が第 24 期の最終回にあたるため、参加者全員の写真撮影を行って散会した。

配布資料

資料 1-1 2020 SCOR Annual Meeting

資料 1-2 2020-Slate-of-new-SCOR-Officers

資料 1-3 SCOR 分科会活動報告 山形俊男

資料 1-4 月刊海洋 8 月号-日本の海洋科学 現状と未来- 表紙と目次

資料 1-5 学術の動向 特集案 窪川かおる

資料 2-1 (非公開) 査読評点

資料 2-2 (非公開) SCOR-WG 評価コメント集

資料 3-1 共同利用航海現状 沖野郷子

参考資料 1 UN Ocean Decade (Marie Alexandrine Sicre, SCOR President)

参考資料 2 (非公開)「国連海洋科学の 10 年」の実行計画で目指すもの 植松光夫

参考資料 3 月刊海洋 8 月号序文 山形俊男

以上